

## 7章 教育研究等環境

### 1. 現状の説明

#### (1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。

本学は、1997年度より5年ごとの総合的な中期経営計画を策定し、施設・設備の整備計画について検討のうえ優先順位を定め、年度別の実施計画を立て教育研究等環境のさらなる充実を図り、学生の学習意欲の向上ならびに研究活動の活性化に資するよう方針を定めている。

第三次中期経営計画（資料7-1）では、2006年に大学の創立40周年に合わせた経済学部の所在する稲毛キャンパスの校舎・施設・設備に係る大規模な整備計画を立て、新館（3号館）の建設や老朽化した1号館の耐震補強工事等を2008年度に実施するなど施設の充実に力を入れてきた。2009年度には、佐倉キャンパスから国際学部を稲毛キャンパスに移転し、大学本体は稲毛キャンパスに統合された。

現在の第四次中期経営計画（2010年～2014年）（資料7-2 p.2）は、主に教育の中身の充実に力を入れる計画としており、メディアセンターの開架書架増設工事や事務システムサーバー購入などの設備を整備している。

#### (2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

2008年12月竣工の稲毛キャンパスの3号館（7,143.24㎡）は、ガラス張りの明るい空間であり、コミュニケーションラボ、メディアセンター等に学生が自由に使えるPCを配置した。他にはフードコート、ラウンジ、オープンデッキテラスなど学生が自由にくつろげるオープンスペースを配した。また、緑化事業としてキャンパス周囲のブロック塀を植栽に変え、校内にも植栽を設け、周囲の景観との融合を図り緑豊かで地域に開かれたキャンパスになっている。校舎面積は22,365㎡、校地面積は82,548㎡であり、どちらも大学設置基準を上回っている（大学基礎データ 表5）。また、2007年度以降の主な施設・設備の整備状況は次のとおりである。

2007年度	4号館改修工事、2号館エアコン改修工事、クラブ棟（プレハブ）建設工事、萩台野球場防球ネット設置工事、佐倉校地10号棟特別教室改修工事（音楽室など実習室）
2008年度	3号館建設工事、1号館および2号館改修工事、佐倉校地野球場建設工事（萩台野球場から移転）、佐倉校地2号棟エアコン改修および体育館防水工事
2009年度	1号館耐震補強工事、1号館および4号館改修工事、佐倉校地学生諸証明書発行機設置（取換更新）
2010年度	就業力GP用PCほか備品購入、メディアセンター開架書架増設工事、佐倉キャンパス移動用の中型バス購入
2011年度	事務システムサーバー購入、課外活動の車両購入

## 7. 教育研究等環境

2012年度 3号館語学ラウンジ改修工事、メディアセンターのサーバ、クライアント無線システム、ICT活用事業システム等購入

大学の施設・設備の維持管理は大学運営室が株式会社敬愛サービスと相談のうえ年間計画（修繕・交換など）を立て行い、特定建築物定期検査報告書や消防設備点検報告等は敬愛サービスが業者発注して報告等を行っている。

教員研究室については、老朽化した1号館4階の研究室は取り壊し、2号館および3号館の研究室へ移動させたため改善された。

防災避難訓練については、2010年度から消防署への通報訓練等（2011年3月4日、2011年10月13日、2012年10月25日、2013年11月14日）を実施している。大学生等の帰宅困難者対策としては、千葉市稲毛区役所、稲毛消防署、千葉北警察署並びに交通機関と災害時の事情情報交換連携図を作成して連絡体制を敷いている。また、本学は千葉市稲毛消防署からAED（自動体外式除細動器）の応急手当普及協力事業所の認定を受けており、本学学生はもとより近隣住民等の救護協力が期待されている。

省エネルギー対策については、エネルギーの使用の合理化に関する法律および地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき「学校法人千葉敬愛学園省エネルギー対策に関する規程」（資料7-3）を制定し、学園におけるエネルギーの使用の合理化および温室効果ガス排出削減を図るため年2回の学園全体会議を開き、節電の目標値の設定や備蓄品の確認、並びに緊急連絡体制などの確認を行っている。

### （3）図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。

本学メディアセンターは、2008年度新館（現3号館）建設にともなって、旧メディアセンター（現4号館）から3号館2階、3階に移転した。それまでのメディアセンターの床面積（旧館1階、2階、3階）は1,937.11㎡、地下書庫1,120.00㎡、地下電気空調室501.00㎡で総床面積は3,558.11㎡であった。移転によって新メディアセンターの床面積は、3号館2階部分（情報機器関連フロアー）が474㎡、3階部分（図書関連フロアー）が704㎡で総床面積は1,178㎡となった（資料7-4）。書架収容可能冊数は、旧館で約155,400冊であったが新館では約106,000冊となった。収容しきれなくなった約50,000冊については、稲毛キャンパスには書庫として使用できるスペースが確保できないため、新館建設に合わせて稲毛キャンパスに移転して来た国際学部が学生ホールとして利用していた佐倉キャンパスの施設の一部（暫定書庫スペース）に移設している。そのため、書庫に所蔵している雑誌、書籍等の閲覧希望があった場合、佐倉キャンパスから移送するようにしている。

2013年3月現在、蔵書数は156,566冊で、この内85,181冊が開架されている。2010年度受け入れ図書総数は2,700冊、2011年度が3,080冊、2012年度が2,685冊であった。

学術雑誌等の所蔵数は449誌で、うち249誌が外国雑誌である。電子情報（電子ジャーナル、データベース等）は、日経BP記事検索、ProQuest Research Library、CiNii Articlesなど19種類である（資料7-5 表31）。

## 7. 教育研究等環境

職員は、現在専任職員 2 名（司書資格保有者 1 名）、嘱託および臨時職員 6 名（司書資格保有者 2 名）である。専任職員が 2 名しかいないという状況のために、予算執行やメディアセンター業務の遂行等において嘱託職員への依存度が高くなっている（資料 7-5 表 32）。

開館時間は、2010 年度までは 9:00 開館-18:00 閉館であった。前回の自己点検に於いて開館時間の延長等が検討課題とされたのを受けて、2011 年度からは開館時間を 30 分延長し、9:00 開館-18:30 閉館としている。なお、土曜日、日曜日の開館については、検討中であるが実施には至っていない（資料 7-5 表 32）。

3 階部分（図書関連フロアー）には閲覧席が 69 席、キャレルデスクが 4 席、個人ブースが 7 席、OPAC 検索性 3 席、2 階部分（情報機器関連フロアー）には、インターネット端末用の PC 席が 20 席（OPAC や外部データベースへのアクセスが可能）、閲覧席 36 席、AV コーナー 12 席、ミーティングブース（4 部屋）14 席、ソファ 48 席で合計 220 席がある（資料 7-5 表 33）。また、情報教室の PC258 台からもインターネットアクセス等が可能である。

情報検索設備として、上記の PC 席（20 席）の他に貸出用ノート PC が 90 台ある。学生の利用を促すために 1 年生全員を対象としたメディアセンターガイダンスを行い、図書関連フロアーの利用方法、情報端末利用方法やデータベース活用を主とした情報検索等を学生に案内している。

国内外の学術情報相互利用に関しては、国公立大学図書館協力委員会による大学図書館間相互利用、国立情報学研究所の相互利用制度（NACSIS-ILL）や千葉市図書館情報ネットワーク協議会等に加盟し活用している。

### （4）教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

1997 年に国際学部を佐倉キャンパスに設置し、その間稲毛キャンパス（経済学部）との 2 つのキャンパスで教育研究活動を実践していたが、学生サービスの向上並びに教育の質的向上を図るため 2009 年の 3 号館完成と共に、国際学部を稲毛キャンパスに移転し、現在の 2 学部 4 学科体制による大学運営を展開している。専任教員には個人研究室が与えられ、研究活動を行うための印刷室、学会関係の資料室、インターネット環境を整えている。

3 号館の完成により、学生への教育環境も大幅に改善され、一般講義室および特別教室（理科室・図工室・家庭科室・音楽室）の全てに AV 機器（大型テレビ・プロジェクター・DVD）を装備しており、視覚教育にも対応できるようにしている。また、500 名を収容できる 2 号館大教室（2201 教室）では、学年を一堂に会しての研修講演会や年度当初のガイダンスも行うことができ、情報発信での差異をなくすことが可能となった。一方少人数ゼミを教育の基幹としており 1 ゼミあたりの選択人数を 10 名程度に割り当てるため、ゼミ教室を 14 教室設置している。

情報機器関連は平成 21 年 3 月の国際学部の稲毛キャンパスへの移転に伴い再整備され、平成 25 年 3 月に機器の更新、および若干の再整備が行われ現在に至っている。

## 7. 教育研究等環境

現在は、1号館2階に5教室、計178台のPCを整備し、情報リテラシー教育の他に様々な講義で利用されている。3号館2階にコミュニケーションラボを配置して21台のPCを整備し、様々な学修の場として利用されている。5階に2教室、計85台のPCを整備し、1教室はCALLシステムを導入して語学授業の場として利用されている。1教室は情報リテラシー教育、各種ガイダンス、学修の場として利用されている。

学内全域に無線ネットワークを構築しており、当該ネットワークを利用する90台のノートPCを整備し、一般教室でもPCを利用した授業ができる環境を構築している。

また、施設以外においても、教育研究活動の推進を目的として①個人研究費、②研究プロジェクト補助金、③共同研究費を支給している。①個人研究費は、「学校法人千葉敬愛学園個人研究費支給規程」（資料7-6）に則り、毎年の経常的研究資金として専任教員に一人あたり25万円を支給する。②研究プロジェクト補助金は、個人研究費とは別に、教員の研究活動を支援するために設けられた研究費であり、「学校法人千葉敬愛学園研究プロジェクト補助金規程」（資料7-7）に則り、毎年学内で公募し、申請をした個人あるいは共同研究者に対して、研究プロジェクト補助金審査委員会が認めた場合に支給する。③共同研究費は、敬愛大学総合地域研究所が企画する課題をテーマに掲げる研究に対して、その研究費を助成するものであり、「敬愛大学総合地域研究所規程（「共同研究の助成」に関する運用細則）」（資料7-8）に則り、毎年学内で公募し、申請をした研究代表者に対して、研究所運営委員会が認めた場合に支給する。

### （5）研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

研究倫理の一つの側面である公的研究費等の取り扱いについては、その適正な管理・運営を行うことを目的とした「敬愛大学における公的研究費の管理・運営に関わる規程」並びに関連規程に則り、適正な使用がなされている（資料7-9、7-10、7-11）。

研究遂行上の個人情報の保護に関しては、「学校法人千葉敬愛学園個人情報保護基本規程」（資料7-12）およびガイドライン「個人情報保護ガイドライン」（資料7-13）に沿った対応がなされている。

大学の教育研究活動に関わる倫理規程は、2014年4月施行予定であり（資料7-14）、研究倫理委員会規程は2014年度中の制定・施行を目途に検討していくこととしている。

## 2. 点検・評価

### ●基準の充足状況

教育研究に関する環境整備は第四次中期経営計画に沿って進めている。特に新校舎建設に合わせて、図書館、情報機器、研究室等は整備が進んでいる。しかし、質の高いレベルまでには届いていないため、新中期経営計画においても具体的計画を織り込む。

#### ① 効果が上がっている事項

## 7. 教育研究等環境

- ・教育環境等の整備については、第三次中期経営計画の中で、稲毛キャンパスに新校舎を建設し、老朽化した校舎の一部取り壊しや耐震化工事を完了させた。2学部の稲毛キャンパス統合化も施設の充実と活用方法の効率化およびキャンパスの活性化につながりつつある。管理全般は関連企業である株式会社敬愛サービスと協力して経営計画に沿って実施している。省エネ対策は空調および照明に重点を置き、目標数値を達成している。
- ・図書館機能は移転によって総床面積減、蔵書減等にはなったが、学生が自由に使用できるコミュニケーション・ラボの新設により、図書館閲覧室面積減をカバーしている。また、個人使用可能なノートPCおよびPCアクセス可能な席も充実させた。
- ・教育研究支援環境の整備に関しては、専任教員研究室が整備されている。また、新校舎講義室には全てAV機器が整備され、視覚教育が有効になされている。情報処理教室の充実・強化で情報処理授業およびIT関連資格取得講座で効果がみられている。

### ②改善すべき事項

- ・教育環境整備に関して、照明のLED化、キャンパス内の緑化推進、トイレの最新設備化、文化系クラブ部室の整備等を進める必要がある。
- ・図書館の開館時間延長に関しては30分の延長で対応しているが、さらなる延長を検討することが求められる。土・日の開館に関しては、利用率と市民開放を熟考した上で判断する必要がある。職員の充実に向けては、専任職員の増員の必要性和嘱託職員の職務分掌を鑑み、次年度の人事計画に反映させる予定である。
- ・研究倫理に関する規程は制定できたが、研究倫理委員会規程が未整備であり検討しているところである。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ①効果が上がっている事項

- ・教育環境等の整備に関しては、新中期経営計画のなかで、ハード、ソフト両面から具体的に織り込む。省エネ対策も引続き数値化し、推進していく。
- ・コミュニケーション・ラボ機能強化のため、ラーニングコモンズシステムを導入し、教育効果を高める。
- ・情報処理教室の充実にあわせ、IT関連資格取得を目標値を掲げ実行に移す。

### ②改善すべき事項

- ・教育環境整備に関しては、創立50周年記念事業として推進させる。尚、記念事業の計画は2014年度にプロジェクトチームを発足させ、快適空間の確保、スカイプシステム導入を優先させる計画でいる。
- ・図書館の開館時間延長に関しては、市民である生涯教育講座受講生の意見を汲み入れ、延長を前提に検討していく。図書館職員の充実に向けては、アウトソーシング化を含め、2014年度人事で優先課題として位置づけ、人材強化に努める。

## 7. 教育研究等環境

- ・敬愛大学研究倫理委員会規程は2014年度中の制定・施行を目途に検討する。

### 4. 根拠資料

- 7-1 学園報 臨時76号 2007.4.13 (第三次中期経営計画)
- 7-2 第四次中期経営計画 (2010年～2014年)
- 7-3 学校法人千葉敬愛学園省エネルギー対策に関する規程
- 7-4 平成19～23年度メディアセンター年次報告書 (合冊版)
- 7-5 大学データ集 (「表18 専任教員の教育・研究業績」除く) (既出 資料3-3)
- 7-6 学校法人千葉敬愛学園個人研究費支給規程
- 7-7 学校法人千葉敬愛学園研究プロジェクト補助金規程
- 7-8 敬愛大学総合地域研究所規程 (「共同研究の助成」に関する運用細則)
- 7-9 敬愛大学における公的研究費の管理・運営に関わる規程
- 7-10 敬愛大学における公的研究費の管理・運営に関わる調査委員会に関する規程
- 7-11 敬愛大学における公的研究費の管理・運営に関わる通報及び告発に係わる窓口に関する規程
- 7-12 学校法人千葉敬愛学園個人情報保護基本規程
- 7-13 個人情報保護ガイドライン
- 7-14 敬愛大学研究倫理規程
- 7-15 図書館、学術情報サービス利用に関する資料
  - 『CAMPUS LIFE 2013 経済学部』(p.48～51) (既出 資料4(1)-13)
  - 『CAMPUS LIFE 2013 国際学部』(p.48～51) (既出 資料1-13)